学長あいさつ

Message from the President

本学は1873年に開学した秋田県伝習学校を基に1878年に開学した秋田師範学校、1910年に設置された秋田鉱山専門学校、1945年に設置された秋田県立女子医学専門学校（1947年に校舎全焼による廃止）を祖として、1949年（昭和24年）に新制国立大学として設置されました。設立当初は学芸学部と鉱山学部の2学部で発足しました。そして1970年（昭和45年）には医学部を設置して、教育学部、鉱山学部との3学部体制となりました。現在は国際資源学部、教育文化学部、医学部、理工学部の4学部です。以上のように本学にはこれまで先輩が脈々と育んできた歴史と伝統があります。私たち秋田大学は先輩がこれまで築いてきた誇るべき伝統をさらに発展させて未来に引き継ぐとともに、人類の繁栄に貢献すべく最先端の教育と研究を実施する体制を整えています。

国際資源学部は、日本の大学の中で唯一、資源学の総合教育研究体制を敷いています。資源・エネルギー不足の日本において、その問題を地球規模で解決するための研究に取り組み、世界をリードする成果を蓄積してきました。また、海外拠点となる分校や研究室を設置し、学生交流や国際共同研究を積極的に展開しています。学生は3年生になると約2～4週間、必修科目「海外資源フィールドワーク」に参加し、世界で行われている資源開発等の最前線に立つことになります。こういった学修を通して資源分野のグローバルリーダーを輩出しています。地球に存在する貴重な資源を探し、効率よく生産することや、従来から利用してきた石油・天然ガスに限らず、再生可能エネルギーといった新しい資源の開発・利用にも挑んでいます。さらに経済学や政策論、国際協力、国際法などの社会科学的な知識も国際資源学部で学ぶことができます。

教育文化学部は、教員養成を担う「学校教育課程」と地域協働の核となる「地域文化学科」の1課程1学科から構成されています。「学校教育課程」では、教育現場との密接な連携を図りつつ、地域の教育の活性化に貢献する教員の養成をしています。そして小中学生の学力日本一という秋田の教育の支柱となる教員を養成してきたという実績があります。「地域文化学科」では多角的な視点から地域課題の解決に取り組み、地域活性化に貢献する人材の養成をしています。そして何事にも対応できるための教養を身につけ、柔軟な思考を育むことを通じて、グローバルな見地からローカルな課題を解決できる人材を輩出してきました。

医学部は、医師不足解消のため多くの医療人を育てて、秋田県内外や世界の医療に貢献してきました。また日本全国に指導的立場の医師を多く輩出しています。附属病院は県内唯一の特定機能病院として最先端の医療を提供しています。最近では新型コロナウイルス感染症のパンデミックの際に、秋田県のコロナ対策をリードして、多大な貢献をしてきました。また医師国家試験の合格率は全国の医学部でも上位にランクされています。保健学科は、人を支える挑戦を続けており、看護師や保健師、助産師のほか、理学療法士、作業療法士のすべての国家試験で高レベルの合格率を維持しています。

理工学部は、工学系の学部であった工学資源学部から理学系の要素を取り入れた学部として発足しました。医理工連携による医療・福祉機器の開発や健康寿命延伸の理工学、航空機産業振興の秋田発イノベーションなど世界と勝負できる最先端の研究開発を推進しています。また地方公共団体や地域の産業界と連携して、地域における新たな産業や雇用の創出に貢献しています。また本学における情報通信技術の開発と応用を担ってきたことで、本学の発展に寄与してきました。2025年には理工学部を総合環境理工学部（仮称）に改組して、情報データ科学部（仮称）を新設する予定です。総合環境理工学部（仮称）ではグリーン社会実現に関連した科学技術分野の教育研究を強化します。情報データ科学部（仮称）では情報技術やデータサイエンス・AI等のデジタル技術を活用して諸課題の解決を図り、新たな価値を創造する教育研究を行います。

各学部には大学院があり学部での教育と研究をさらに発展させています。

本学は地域貢献にも力を注いでいます。秋田県の地域活性化のために設置した地方創生センターは地域協働と地域産業研究の2部門からなります。地域協働部門では県内3か所に設置した分校を拠点に、地域の人たちと本学

の学生、教職員が一体となり、秋田の良さを再認識することを目指した活動を行っています。地域産業研究部門では、秋田県の重要政策にリンクした研究事業を展開しています。県内産業の育成により、地域課題の解決に大きく貢献しています。地域防災減災総合研究センターは、近年増加傾向にある自然災害と複合災害に対し、秋田県の実情に合った防災対策に係る調査・研究を分野横断的に行っています。そしてその研究成果を地域に還元し普及啓発を図ることにより、地域の防災力向上に寄与しています。

また、AI研究の推進と社会実装による地域活性化を目指して、2024年3月にAI研究推進センターを設置しました。多角的なAI研究の推進とデジタル人材の育成を行います。さらに、2024年3月にリカレント教育の推進及び実施拠点として、秋田大学の教育資源を活用して自治体及び民間団体と連携し、社会人の学び直しをサポートすることにより、地域人材の育成や地域社会の発展に資することを目的に、リカレント教育センターを開設しました。すでに、DX・ICTの分野について2年前より文部科学省の支援を受け、リカレント教育プログラムを実施しています。今後、本センターが活動の拠点となり、社会人の方々が必要とする知識やスキルに関するプログラムを提供していきます。

グリーン社会の実現に寄与していくための研究や人材育成についても大学全体で取り組んでいます。内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業に採択され、新世代モーターによる航空機の電動化システム研究開発を推進するため、秋田県や秋田県立大学と共同で秋田大学電動化システム共同研究センターを設置しました。その他、秋田県が注力している洋上風力発電や余剰電力の利活用など再生可能エネルギーに関する領域にも重点的に取り組んでいく所存です。

医療を発展させるのは医療従事者だけではありません。医療・介護機器や医薬品を開発する技術者や研究者も医療を発展させる大きな役割を担っています。将来の医療・介護を進めるためには医療従事者と理工学研究者の連携が重要です。本学では医理工連携をより効果的かつ力強く推進するため、医学系研究科と理工学研究科の強みを活かした教育と研究を行う先進ヘルスケア工学院を設置しています。また「医理工連携夢を語る会」を定期的に開催して、医療・介護機器や医薬品の開発等に加え、健康食品開発にも目を向け、産業の創生や振興に向けて取り組んでいます。秋田県は少子高齢化の最先端県です。特に高齢者特有の疾病や病態の予防・治療は解決すべき喫緊の課題であり、本学の貢献が大きく期待されています。高齢者医療に特化した研究拠点として、2017年度に秋田県からの補助を受けて高齢者医療先端研究センターを設置しました。高齢者医療の先端的な研究や地域社会学の知見を踏まえた学際的な研究を推進しています。また、秋田県の抱える大きな課題である自殺の予防活動を強化するため、秋田県からの補助を受けて自殺予防総合研究センターを設置して活動しています。さらに2023年3月に感染制御、感染分子疫学解析、予防戦略と対策、高レベル感染症対応医療人材の育成を目的に感染統括制御・疫学・分子病態研究センターを開設しました。本センターは県全体の感染制御ネットワークの「司令塔」の役割を期待されています。また研究面では感染疫学研究とその社会的影響、次世代シークエンサ等による病原体のゲノム解析、ホストの細胞内情報伝達レベルの病態生理解析を行なっています。そしてこれらの教育研究が将来起きる新興感染症の予防と新規制御戦略や新規治療薬開発につながると期待しています。

本学で行われる学部から大学院へのシームレスな教育と明確なミッションを掲げた各センターが「優秀な卒業生を社会へ、そして優れた研究を社会に還元する」という本学の使命に応える礎となっています。日経HR「価値ある大学2018年版　就職力ランキング」において、企業が選ぶ「採用を増やしたい大学ランキング」で堂々の全国第一位に選ばれました。卒業生の「行動力」、「対人力」が高く評価されたものです。また、2021年10月発行の日経グローカル「大学の地域貢献度調査」において、総合ランキング全国4位となったほか、「THE日本大学ランキング2023」において、全国約800の国公私立大学中、61位という高位置を獲得できました。これらは、卒業生自身の努力の賜であることは言うまでもありませんが、それをバックアップする教育研究が本学にあることの証明であると誇りに思っています。

大学への進学や就職、研究者や教育者への道を選ぶ際には、それぞれの個人が持つ夢や目標が重要です。本学は「あなたの夢を実現させよう」を最も大事な理念として掲げ、学生、職員、研究者一人ひとりの夢や目標を尊重し、その実現に向けて積極的に支援しています。本学を「母校」とする我々は皆、在校生、職員、研究者、そして新たに仲間入りしてくれる諸君が自身の夢を実現させることを大いに期待しています。

国立大学法人秋田大学長　**南谷　佳弘**